

1、評価項目の達成および取組状況

○前年度（令和4年度）の取組み

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園

令和4年度 学校評価の取り組み報告 ～ダイジェスト版～



【今年度の取り組み状況】

【Ⅰ 評価項目】

【保育者の専門性に資する研修・研究への貢献・推進】
 「幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもてるよう実施している」について、研修の中で今年度行っていた小学校の先生を交えた研修ができなかったり、職員がどのように考え意識しているかがわからなかったところがあった。幼小連携推進委員会と、19名先生との研修会にて、幼小連携についてや10の部から集まった先生に、部内での学びを深める機会を作ることとした。

【研修会】

＜幼小連携小研修会 内容＞
 ○幼児教育センターの役割と幼小連携について、研修会
 ＜東京理科大学 先生先生研修会 内容＞

【職員アンケートより】

・今年度行っている研修、遊びが小学校への学びに繋がっていると感じた。
 ・ゲームワークを行った時、自分自身で考える機会があったことで、「幼小連携」を難しく考えず行っていたことに気付いた。今回の研修で取り組みが明確になったので、保育にどのように生かしていこうか考えるようにする。
 ・園内研修という形でできた為、自分が理解しているだけでなく、他職員がある機会で行っていると感じた。

【まとめ】

2 園の運営研修を経て、幼小連携に関心と関し、親と連携して職員が研修の保育が幼小連携に繋がっていることと気づくことができ、深く考えた幼小連携への取り組みを感じ、それと共に、興味・関心にも繋がった。また、具体的に保育に生かせることも考えることができた。

【本2 評価項目】

児童の発達を促す活動や事件に押し、園の職員全体で子どもの権利の発達理解や安全対策について自分たちの保育はどうか振り返り機会とするため、必要な項目だけを抜粋して自己点検を行った。分析の結果、評価の低くなった点として、「保育の振り返り方法（例）」「保育の振り返り方法、3歳未満児への対応」について、各年齢による振り返りの違いはやはりあると認識し、受け入れられることだけが子どもの育ちに必要なのかやなどをゲームデザインセッション(0歳)をして話し合うこととした。

【ゲームデザインセッションについて】

①どのような場面でも話し合えるようにしたい。みんなが自分の保育を振り返った。

②様々な場面がある中で、話し合った場面はどのような場面、より良い場面はどのような場面かを探し出し、園内研修で話し合う。子どもたちの行動を制止する場面、子どもたちの安全を守るために強い言葉や、時には禁止語を使っても子どもたちの行動を制止させる必要がある場面と認識した。それぞれの場面でも、子どものより良い学びとなるように、どのような言葉がけや関わりができるかを考えてみる。

【まとめ】

話し合いの中で、現在園に持っている「玉置田の伝説」に該当する関わりとなる可能性もあることもみんなで見直し、改めて園の伝説のような関わりや声掛けなど子どもへのアプローチを見直し、子どもの学びや発達に繋がって



いく事が必要だと感じた。
 【Ⅱ 評価項目】
 「保育者の専門性に資する研修・研究への貢献・推進」に該当している内容を意識し、自己ともに意識していく。
 【Ⅲ 評価項目】
 「保育者の専門性に資する研修・研究への貢献・推進」に該当している内容を意識し、自己ともに意識していく。
 【Ⅳ 評価項目】
 「保育者の専門性に資する研修・研究への貢献・推進」に該当している内容を意識し、自己ともに意識していく。



＜来年度に向けて＞
 園生活の中で、子どもたちへの関わり方や声掛けが「不適切な保育」に該当しているかを意識し、自己ともに意識していく。
 安全のために禁止語が必要な場面なのか、声掛けや関わりで促せる場面なのかを考え、言い換えられる禁止語は言い換える、必要な場面でも禁止語を使った時には子どもたちのアプローチや声掛けの重要性を共有し、園や保護者、子ども自身などみんなが安全を確保していく事の重要性を共有した。

＜学校園評価委員会の方からのご意見＞
 ・自己点検、自己評価で、保育者が自分達の保育の「できていない点」に対して良い評価をつけている点5とでも良いと感じた。人間は強いてそこは強いたくなるものであるが、できていないことを声に出して言える関係はとも良い、ぜひ継続して欲しい。
 ・保育現場では、子どもが取り組む、相談して取り組んで欲しい。
 ・3年間、PTA役員として学校評議員会に関わらせてもらい、先生一人一人や園全体として子どもたちの事を考え、日々保育に取り組んで下さっていることがよく理解できた。委員のメンバーになったからこそのことができた部分も大きく、とてもありがたかった。
 ・全園活動推進・保育室では、事の進捗で注目の活動に関する活動が2週間定まらずに、地域の環境を理解し、活用する取り組みは今も継続して欲しい。園長と話し合った地域役員も、「また園長が来るから神話を相談しよう」など楽しみにしている。
 ・子どもへの声かけや関わりは教師の注目の活動として声かけなければならぬものであるが、園長には子どもへの愛情や子どもの人権を尊重する姿勢がなければならぬ。とても大切なこと。今回の取り組み、とても素晴らしい。
 ・この地域のみんなの生活の場が広がった。子ども達のことをよく考え、園と保護者が日々を積み重ねていることが皆さんのお話しの中で読み取れた。進捗している教育機関、地域の方の存在もとても心強い。
 ・先般、不適切保育が社会問題として話題となったが、これだけの取り組みをしている園もあるというところを知ってほしい。園として、もっと情報を発信して欲しい。私も先生に伝えているが、（大学教員）
 ・「小学校との連携」という部分でこの委員がメンバーとして参加させていたというが、これらの内容を学校の中で共有できているかについては、まだこれからの課題と認識している。より前に保幼小連携に取り組み、小学校の生活に繋がってほしいと思う。

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

具体的な取組状況

園生活の中で、こどもたちへの関わり方や言葉掛けが「不適切な保育」に該当していないかを意識し、自他ともに確認していく。

安全のために禁止語が必要な場面なのか、声掛けや関わりで促せる場面なのかを考え、言い換えられる禁止語は言い換える。必要な場面で禁止語等を使った時にはこどもたちへのフォローや保護者への分かりやすい状況説明を行っていく

【1回目の自己点検・自己評価を通して】

<7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

重点項目①Ⅲ保育者としての資質や能力・良識・適性

「締め切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている」「当番や役割による仕事を理解し確実に行っている」という項目の評価が低かった。

グループディスカッションを通して

⇒①クラス②行事③係分担④その他のどの部分が締切りが守れないのか具体例を出し、改善策を考えた内容と原因を話しあった結果、

- ・複数の業務をやらなければならない時の優先順位をうまくつけられない
- ・1つひとつの業務(計画書作成など)に時間がかかる
- ・突発的な仕事が入り、まとまった時間が作れない
- ・やらなければならないことはわかっているが、後回しにしたり忘れてしまう等があげられた。

改善策

★書類の様式変更

3歳以上児の月案様式変更(R5.10月～書式変更)

- 前月の子どもの様子、音楽あそび、言葉あそび等の欄を削除(週案に記入している為)担任・副担任の評価・反省欄を小さくする

行事計画書の様式変更(運動会の反省、作品展計画書で様式を検討、お遊戯会から変更)

- 各クラス計画書と練習スケジュールの提出日を分散し、業務が立て込まないようにする

★突発的な仕事が入った時の対応

3歳未満児連絡帳記入

- 職員の急な休みが多い時は、定型文を作り、全員同じ文章を送る

職員配置の変更

- 職員に急な休みが出た時はパート職員に超過勤務を依頼する(主幹保育教諭以上の職員が判断する)

重点項目②Ⅳ保護者への対応・守秘義務

対応上のマナー、良識の項目について

- ・正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている
 - ・電話では、簡潔に要領よく対話することを心がけている
 - ・保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応している
- という部分で、評価は悪くないが、上手くできていない事を具体例にあげている職員が多かった。

グループディスカッションを通して

例題をもとに報告の仕方・報告時のポイント・5W1Hの重要性を考えた。

例:午睡明けの時間に、A君とC君が絵本の取り合いをしていた。その取り合っていた本が、近くにいたB君の後頭部に当たり赤くなった。30分程様子を見るので良いか確認の電話をする。(遅番職員は、担任からの引継ぎ後保護者に直接伝える)

3人の職員が保護者にどう伝えるか実際に話してみても、良かったところや改善点を聞いていた職員で話し合った

改善策

《正しい日本語を意識して使う》

・「友だちと・友だちが・友だちに」の接続助詞の使い方によって、意味や伝わり方が変わってくるということを理解する。それを聞いている周りの人が、間違った使い方に気が付いたら教えてあげるようにする

《経験を増やす》

・5W1Hを意識することが分かっている、それをもとに会話する経験を増やしていくことも大事。まずは、積極的に内線を取るようにし、職員間で連絡を伝える際に5W1H や文の構成を意識する。その為、新採用職員が主に内線を取れるよう、周りの職員も意識する

【2回目の自己点検・自己評価を通して】

＜12月の自己点検・自己評価の集計・分析結果＞

重点項目①V地域の自然や社会とのかかわり

小学校との連携について

「園の保育内容が小学校への準備としてつながることを理解している」

については評価が高かったが、具体的に何がどう繋がっているのかを職員が理解できているのかが不透明だった。また、「小学校との連携」と「小学生との交流」が混同しており、区別できていない。

12月26日幼保小連携研修会「幼保小の架け橋プログラム」開催

講師：新潟県幼児教育センター義務教育課指導第二係長 相田巧様

南魚沼市教育委員会、南魚沼市子育て支援課、南魚沼市立上田小学校・塩沢小学校・牧之保育園、わかば保育園、塩沢金城わかば児童館の職員と一緒に研修を受けた。

グループディスカッションも行い繋がりについて学ぶことができた。

園内のグループディスカッションを通して

・小学校との連携と小学生との交流を区別をし、理解を深め、園で行っていることがどのように小学校に繋がっていくのかを出し合い、共有した

・12月26日に行った幼保小連携についての研修で学んだ架け橋プログラムの事との繋がりを確認し、今後は園で小学校との連携について深めた認識をどのように小学校に繋げていくのか、小学校区内の園と情報の共有や連携についても考えていく必要があると確認し合った

改善策

・12月26日(火)に園で行った幼保小連携についての勉強会后、市の子育て支援課、学校教育課等市の職員間でも勉強会を実施することになった

・今回のグループディスカッションを通して、日々行っている保育の中で小学校へ繋がっていることが多くあることに気が付いた。この気付きを保育の中で大切に、担任・副任からその都度子どもたちへ「小学校ではこんなことを学べるよ」などの声掛けをしていくことで意識させる

例：・楽器あそびから…小学校ではもっといろいろな楽器があるよ【音楽への興味】

・料理教室…小学校に行くともっと大きな包丁を使うよ【家庭科への繋がり】

・ゴミ拾い…小学校では掃除の時間もあるよ【小学校生活への興味】

重点項目②Ⅷ.地域における子育て支援

自園の子育て支援事業の理解について

園の職員→児童館で行われている子育て支援の内容をあまり理解していない

子育て支援担当→情報を知ってもらうためにはどのような情報発信の仕方が良いのかということが課題にあがった。

グループディスカッションを通して

子育て支援事業の内容や現状を職員間で再確認するため、子育て支援担当職員から写真付きの資料を基に改めて説明を聞いた。

その中で特に多く出た意見としては

・楽しめる講座がたくさんあると思う

・値段設定も手ごろである

・楽しい講座が多いのもっと多くの方にきてもらえるとよい

- ・1人で来館するのは恥ずかしい、勇気がいるのではないか
- ・自分自身も新しい所へ初めて行くときは一歩が出にくかった
- ・はじめの一歩を踏み出しやすい環境、対策を考えなければならない

↓

これらの意見を踏まえて、子育て支援講座・児童館に来館する**はじめの一歩**を踏み出しやすくするための対策を考えた

改善策

- ◎児童館だよりに「是非、お友達と一緒に」など一言追加する
- ◎現在の配布場所に加え、下記の場所へも児童館だより配布の依頼をする
六日町子どもクリニック ひとみレディースクリニック バースデイ
西松屋 市の健診会場(健友館) 72(ナッツ)
- ◎SNSの活用
- ・利用者の「来てよかった」を伝える方法を考える ・LINEをもっと有効に活用する
- ・Instagramなど、写真や動画を多く載せられるアプリで情報を発信
- ◎お友達紹介特典を作る

紹介した人 ⇒ ママ'sカフェの無料チケット

紹介された人 ⇒ 写真のプレゼント & ママ'sカフェの無料チケット

子育て支援事業について情報発信の具体的なアイデアをみんなで話し合い、実行に向けての分担までを決めることができた。課題だけに目を向けるのではなく、現在の講座内容や金額などについての良さを認め合う事もでき、職員の自信や今後のモチベーションにも繋がる機会となった。良い事業を沢山行っているからこそ、児童館職員・幼稚園職員で協力し、より多くの方に利用してもらうことで施設の情報が広まっていったら良いと思う。また、今回のグループディスカッションで学んだ事やこれから実行していく内容は、幼稚園職員にも共有し、施設同士連携を図りながらより良い取り組みとなるようにしていく。

【学校関係者評価委員会メンバー】(敬称略)

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

笛木 隆	南魚沼市教育委員会 子ども若者支援センター指導主事	常山 利江	塩沢小学校校長
宮田 高行	当園 PTA 会長	上村 真史	当園 PTA 副会長
高橋 司	当園 PTA 副会長		
事務局	角谷金城幼稚園長	担当：瀬下副園長	担当：貝瀬教頭 木村主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

V地域の自然や社会とのかかわり

○幼保小連携についての研修で学んだ架け橋プログラムの事との繋がりを確認し、今後は園で小学校との連携について深めた認識をどのように小学校に繋げていくのか、小学校区内の園と情報の共有や連携についても考えていく

○日々行っている保育の中で小学校へ繋がっていることが多くあることに気が付いた。この気付きを保育の中で大切にし、担任・副任からその都度子どもたちへ「小学校ではこんなことも学べるよ」などの声掛けをし、興味関心を持たせることを意識していく

VIII.地域における子育て支援

- 子育て支援講座・児童館に来館する**はじめの一歩**を踏み出しやすくするための対策を実行していく
- ◎児童館だよりに「是非、お友達と一緒に」など一言追加する
- ◎現在の配布場所に加え、下記の場所へも児童館だより配布の依頼をする
- ◎SNSの活用
- ◎お友達紹介特典を作る

音楽・絵画・言葉使いについて

○外部講師の指導等を取り入れ、年齢ごとの成長の目標を職員間で共有していく

4、学校関係者の評価

・さくら組の保育参観を見て、小学校への準備をして頂いていることがよく分かった。自分の子どもを（卒園児）を見てもスムーズに小学校へ移行できていると感じる。

・小学校への訪問、散歩での交流（自然林での交流）など積極的に取り入れて欲しい。

自然と交流することで、小学校にいるお兄さん、お姉さんが分かるようになると年長児の安心に繋がる。

・子育て支援事業は、良い講座あるが幼稚園に通っている保護者としてもあまりよく分かってなかった。今後、積極的に発信して欲しい。

・グループディスカッションでいろんな話し合いが行われるが、先生方一人ひとりが普段から気づく感性が素晴らしいからだと感じる。

・年長児の様子を見て感心した。担任の話を聞いて、行動するという基礎が身についていると感じた。その中でサポートが必要な子どもがいるが、必要に応じて周りにはいる保育者が素早く対応する姿を見てチームで保育されているのだと感じた。

・子育て支援事業は地域の中で価値がある。居場所を求める親御さん多い。様々な手段で事業を広げようとする取り組み、職員で様々な策を考えているという姿に敬意を表したい。

・金城幼稚園・保育園からは複数の小学校へ入学する。個々の心情に合わせて対応することが求められ難しい面もあると思うが、一番多く入学する塩沢小学校と連携を図ることが最善策と思う。違う小学校へ入学するお子さんも小学校という雰囲気を感じることができると思うので、この距離感を有効に生かして欲しい。散歩で小学校へ行く、運動会練習の様子を自然林から見る、マラソン大会を応援に行く、学校の中を見学するなどやれることはたくさんあるのではと思う。

・デイサービス訪問など、地域との関わりを大切にされた教育活動をされていることが子ども達の成長には大きな意味があるのだと思う。

・年長児の活動では、保育者が“こうするんだよ”ではなく子ども達が工夫できるよう柔軟性をもった提案をしている姿に意図を持って保育をされているのだと感じた。

・スタンプの材料では、廃材だけにとどまらずマジックのキャップなど普段材料として使用しないものに着目した子どもを保育者が認めてくれているから実践に繋がられているのだと思う。

その中で子ども達が様々な工夫をしたものを友だち同士でどのように認め合い、互いにアイデアを共有するなど横の関係性までを見たかった。

・自己点検・自己評価では、それぞれの立場から意見があがっている。中核となるメンバーが全職員の意見を集約して取りまとめてグループディスカッションに繋げるという流れが基本となるが、それぞれの立場で一人ひとりの職員が考え話し合えるという環境を作っているということに意味があると感じる。また話し合いの中で、職員が一つ一つの事を大切に認識して実行することでモデルとなることが大切。

5、苦情解決結果

令和5年度は苦情がありませんでした。(3月15日現在)